



MODEL : EG320FT/500FT

エア式オイルエクストラクター取扱説明書

この度は、**エア式オイルエクストラクター**のお買い上げ誠にありがとうございます。
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、ご理解の上で使用くださいますようお願い致します。

【適応】

エンジンオイル、作動油、ブレーキフルード



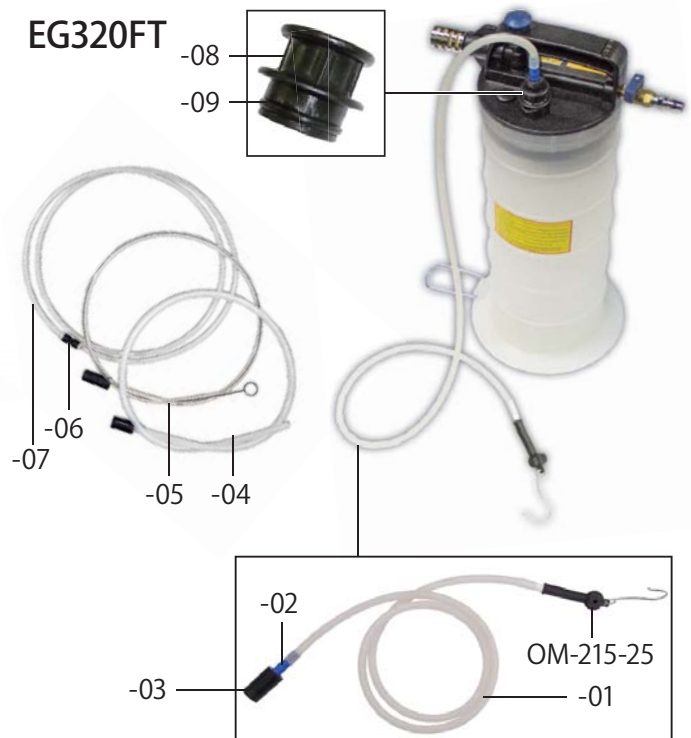
【セット内容・各部名称】

EG500FT



型 式	名 称
EG500FT-01	ホース A (φ 10X6.5, 2.6m)
EG500FT-02	ホース B (φ 10X6.5, 1.5m)
EG500FT-03	ホース C (1/4, 300mm)
EG500FT-04	ホースジョイント (メス / メス, 1/4)
EG500FT-05	延長ホース (1/4, 2m)

EG320FT



型 式	名 称	型 式	名 称
OM-215-25	L 型ホース口	EG320FT-05	ホース B (1/4, 1.1m)
EG320FT-01	シリコンホース (φ 8X4, 1.1m)	EG320FT-06	ホースジョイント (メス / メス, 1/4)
EG320FT-02	取り出し口	EG320FT-07	延長ホース (1/4, 2m)
EG320FT-03	本体接続ジョイント	EG320FT-08	本体キャップ
EG320FT-04	ホース A (φ 10.3X8, 1.1m)	EG320FT-09	O リング

【※使用上の注意※】

- ・安全のため、以下の化学物質の使用・保存用には使用しないでください。
毒物／劇薬、強い酸性の物質（塩酸等）、アルカロイド系物質、有機溶剤など
- ・この製品で石油類またはその他強い可燃性物質の抜き取り、吸引、保存等を行わないでください。
- ・本来の使用目的と異なる用途に使用することや、勝手に改造・分解することはお止めください。
- ・本体および吸引チューブ等は高温多湿の場所や直射日光が当たる場所、雨などが直接掛かる場所に保管しないようにしてください。
- ・ご使用後は速やかに本体からフルードの排出を行い、洗浄等を行ってください。

エンジンオイルの抜き取り (1/2)

使用方法

注意

この製品で車のエンジンオイルを抜き取る際、まず車を平らな場所に止め、オイルの暖気と中のスラッジやススなどが混ざるように5分間ほどエンジンを回して置くようにしてください。

抜き取ったエンジンオイルは非常に熱くなっておりますので火傷に注意してください。



オイルを抜き取るエンジンのレベルゲージを外します。本体 (EG320FT/500FT) の各ホース取り付け口にホースをセットしてください。



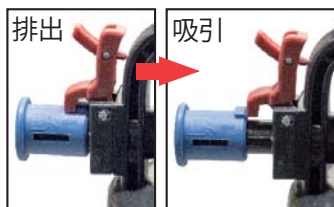
オイル用ホースをオイルレベルゲージ穴に差し込み、オイルレベルゲージと同じ長さまで差し込みます。



バルブを閉じた状態でエア配管圧力 (0.5 ~ 0.7M pa) を接続します。



バルブを開き、エンジンオイルの抜き取りを行います。



★ EG500FT は吸圧切替フックが左記の状態で吸引に切り替わります。



オイルがタンク一杯になると押しボタンが持ち上がり、エアの供給が止まります。(※ EG320FT のみ)

タンク容量は EG320FT は5リットル、EG500FT は9リットル。

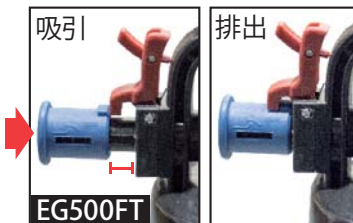
エンジンオイルの抜き取り (2/2)

使用方法



オートストッパーが働いたらタンク内の廃油を処分してください。

★ EG320FT は本体のホース口より排出。

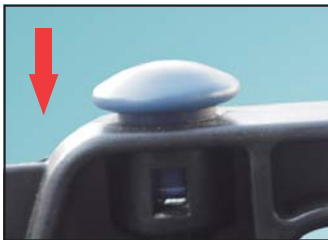


★ EG500FT は吸圧切替フックを左記の状態に合わせて、
オイル排出用ホースに付け替えてバルブコックは閉じ気味で排出。



バルブコックを少しずつ開いてください。

※一気に全開にするとオイルが勢いよく噴き出すので
注意してください。



プッシュボタンを押し下げるとオートストッパーが解除され、
作業が再開できます。(EG320FT のみ)

ブレーキフルードの抜き取り

使用方法

EG320FT は付属のシリコンホースに付け替える事によりブレーキフルードの抜き取り作業が行えます。



バルブを閉じた状態でエア配管(圧力 0.5 ~ 0.7Mpa) を接続します。

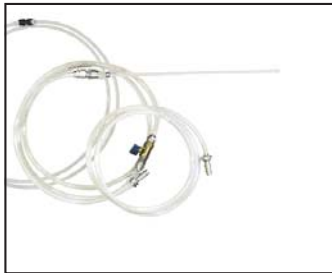


リザーバータンク内のフルードが空にならないよう、自動補給器 (品番: OM-212, OM-213) などで新品フルードを供給できるように準備します。



ブリーダープラグにホース口を差し込み、1/2 回転程度ゆるめます。

★マスターシリンダーが空の時は、予めブレーキペダルを数回踏み込んで、フルードを送り込みます。エア抜き順序および車兩個々の注意事項は整備要領書に従ってください。



バルブを開き、真空引きを行います。数秒間ずつブリーダープラグをゆるめたり締めたりして、エアが消えるまで繰り返します。最後にエア抜き完了を確認します。

★確認の際は、バルブを閉じ気味に調整して行います。強い負圧で吸引するとキャビテーションによる気泡が発生する事があります。



各ホイールシリンダーのエア抜き完了後ブレーキペダルを数回踏み込んで、踏みしろが出てくることを確認してください。



作業が終了しましたら廃油を廃棄してください。

トラブルシューティング

トラブル現象	点検項目	解決方法
フルード、オイルを吸わない	・負圧を発生させて、吸引ホースを指でふさいでも吸わない。	ホースの亀裂 / 潰れ / 詰まりを確認 バキュームゲージで確認 (空気圧 0.5Mpa で -66kPa)
	・ブリーダープラグ側が詰まっている (320FT)	プラグを掃除する プラグを交換する
フルードの出る量が少ない (320FT)	・車両により配管が長い場合があり、その抵抗で吸引できるフルード量が減少する事がある	車両のブレーキシステムを確認 出にくい場合はペダルを踏む (マスターシリンダーのリターンポートを確認)
	・後輪側と前輪側では吸引量に差が出る	
	・トラック・バン等はプロポーショニングバルブが装備されていて、かなりの抵抗となる	
	・ハイドロブースター車等のブレーキシステムでは通常のエア抜き作業ができない場合がある	整備要領書を確認
エンジンオイルの吸う量が少ない	・ホースの取り回しを確認	ホースの折れが無い確認
	・ホース先端がオイルパン底に届いていない	レベルゲージ以上の長さまで挿入する
負圧が発生しない	・エア圧力が足りない	0.5 ~ 0.7Mpa のエア圧が必要です。
	・ホースやタンクに亀裂	
	・タンク結合部のパッキンが劣化している	修理を依頼してください。
	・負圧発生装置が破損している	
	・切替えフックが切り替わっていない (500FT)	切替えフックを吸引にする
	・オイルやフルードがタンクいっぱいになっている	オイル、フルードを排出する
サイレンサー部 (先端) からフルードが噴き出す	・作業中に本体を倒してしまった	ジェネレーター内部に入ったフルードを水ですすぎ、よく乾かしてから再度使用

いつまで経ってもエアが抜けない・ホース内のエアが消えない場合 (EG320FT)

- ブリーダープラグから負圧でエア抜きを行う場合、ゆるめたブリーダープラグのネジ部からエアが混入します。
- これは負圧でエア抜きを行う製品すべてに起きる現象ですが、エア抜きが完了しているか見極める方法があります。

1. ある程度フルードを吸い出しても気泡が消えない場合は、ブリーダープラグのネジ部にラバーグリスを塗ってください。

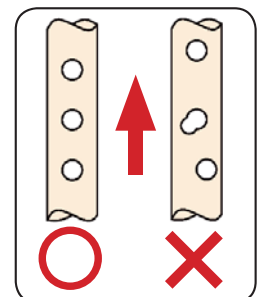
- ⑧ 足で踏む加圧式と異なり、ホース内が負圧になっていると気泡が大きく見えます。
- ⑨ 負圧式の場合、ピストンカップが劣化しているとカップからエアを吸ってしまう事があります。



2. それでも気泡が消えない場合は以下の方法を試します。

- バルブを少し閉じて負圧を弱めます。ホース内の気泡の流れを見てください。
- ホースを軽くつまんでホース内の気泡の流れを見てください。
- 一旦ブリーダープラグを閉め、再度プラグを開けた時のエアの流れを見てください。

気泡の大きさが規則的に流れている場合はエア抜きが完了しています。
大小の気泡が不規則に出てくる場合はまだブレーキラインにエアが残っています。



作業完了後は必ずブレーキ操作により踏み代を出してください。

※修理につきましては販売店から弊社までご依頼ください。